

カラフルタウン岐阜（岐阜市）

郊外部

大規模集客施設

取組主体の概要

（株）トヨタオートモールクリエイトの概要

- ・岐阜市の郊外柳津地区に立地する大型複合商業施設「カラフルタウン岐阜」の企画・運営・管理のため平成11年9月に設立される。
- ・トヨタ自動車100%出資（資本金19.9億円）
- ・カラフルタウン岐阜は、トヨタ自動車㈱がグループ企業（トヨタ紡績岐阜工場）の遊休地であった場所に、「ショッピング」と「アミューズメント」に「カーライフ」が加わった全国初となるショッピングモールとして平成12年11月にオープンさせたもの。
- ・近年の大型ショッピングセンターのトレンドである「長時間滞在型のショッピングセンター」。(飲食、アミューズメントの併設)に加え、「カーライフの充実」に寄与するための自動車販売店がテナントとして入り、常時100台程度の新車が展示されている。

カラフルタウン岐阜の施設概要

- ・総面積：133,884㎡
- ・延床面積：119,141㎡
- ・建物階層：4階建て（1F～2F：店舗、3F～4F・屋上：駐車場）
- ・来場者数：805万人（06年3月期）
- ・駐車場：約3,000台
- ・主なテナント

イトーヨーカ堂、レインボーモール専門店街、十六銀行、大垣共立銀行、トヨタホーム岐阜展示場、TOHOシネマズ岐阜、ナムコワンダーパーク、トヨタ系自動車販売店(岐阜トヨタ、岐阜トヨペット、カローラ岐阜、ネットトヨタ岐阜、ネットトヨタセントロ岐阜)、岐阜ダイハツ 等



赤ちゃん休憩室

取組の背景

年中無休・駐車場無料等の利便性に加え、カラフルタウン岐阜のコンセプトでもある「クルマのことは何でも揃っている空間」「自動車購買層に対応したオールターゲットのテナント構成」、「楽しく遊べるアミューズメント」が、消費者の支持を集めていると言われている。

カラフルタウン岐阜の来場者数は、オープン以降、順調に推移している。

- ・年間で概ね800万人の来場者（約22,000人/日。平成18年12月8日にオープン以来の来場者が5,000万人に到達（オープン以来6年1ヶ月で到達））
- ・食料品・日用雑貨・衣料などの物販に加え、各種飲食店、金融機関、眼科などが出店するとともに、映画館・書店・ゲームセンターなどのアミューズメント機能、さらに自動車ディーラー等のカーライフのエリアが付加されたことにより、来店あたりの滞在時間も長くなっていると推測され、より賑わい感を生み出している。
- ・旧柳津町の人口は増加傾向にあったが、これは、福祉施策の影響も当然ながら大きい、カラフルタウン岐阜や隣接エリアでのショッピングモールのオープンなどによる生活環境の充実・イメージ向上も寄与しているのではないと思われる。

取組の内容

- 地域への貢献の観点から、行政等と連携し、各種取組を展開。
 - ・大規模災害時における臨時避難所の開設等に関する協定(H15.2月)
 - ・カラフルタウン岐阜の屋内駐車場を臨時避難所として開設
 - ・応急生活物資の確保の観点から、イトーヨーカ堂が保有する商品を供給
 - ・境川緑道公園への架橋(H17.4月)
 - ・カラフルタウンから緑道公園へのアクセス向上

- ・「安全・安心まちづくりフレンドリー企業」に登録(H18.8月)
- ・地域の安全を確保するための活動を行う企業等を登録する制度(岐阜県)
- ・地域防犯パトロールの実施
- ・警察署と連携した交通安全啓発活動、青少年防犯対策(夜間パトロール)

○多くの方が集まる場所のメリットを活かしつつ、賑わいの創出に向けたイベントの実施や、他団体に対する場所の提供を行っている。

<行政関連>

- ・飛騨・美濃すぐれもの市
- ・人権啓発フェスティバル in 岐阜
- ・福祉のまちづくり啓発キャンペーン
- ・岐阜県宅建業フェア
- ・子育て支援ポスター掲示 等

<学校関係>

- ・関養護学校校外授業
- ・岐阜工業高校デザイン科作品展
- ・境川中学校コーラス部ミニコンサート
- ・岐阜聖徳学園大学オープンハウス
- ・岐大祭PRイベント 等

<地域関係>

- ・南塚こども神輿
- ・天保宮下太鼓の披露 等

○他団体が実施するイベントへの参加

- ・笠松競馬における「カラフルタウン杯」の提供
- ・流団(岐阜流通業務団地)ふれあいフェスタへのイトーヨーカ堂の出店 等

成果

- ・多くの方が来場される集客施設として、そのスケールメリットを活かした地域づくり・地域貢献への活動が、効果的に展開されている。
- ・岐阜市南部でのシンボリックなエリアとして、家族連れ・カップルなどが集い、単なる買い物場としてではなく、一定時間を過ごすひとつの「まち」の性格を見せており、来場者の生活様式にアクセントをもたらしている。

成果の要因

- ・自治体、周辺自治会、地元商店街との調整に

より円滑な運営に配慮してきた。

- ・大半がマイカー利用による来場であることから、駐車場の充実や周辺アクセス整備に配慮してきた。
- ・テナントの充実、イベントの実施など、施設自体の魅力向上に向けて継続的に取り組んでいる。

今後の課題

- ・地域づくりへの参画の観点から、行政や地元との一層の連携が必要。
- ・「中心市街地」と「郊外部」については、どちらかが繁栄ということではなく、共存共栄していくことが望ましく、それぞれがどう特徴を出し差別化を図るかが課題。
- ・カラフルタウン岐阜の魅力づくりとして、特徴である「カーライフ」の部分をどう活かしていくか引き続き検討が必要。

行政への期待

- ・地域とのつながりを考えた場合、やはり行政からのアプローチがないと、動きづらい面もあり、いろいろな施策を展開する場合の連携を期待。

例：子育て支援のような施策の場合、役所だけではなく、カラフルタウンのような場に休日だけでも出張窓口のようなものを作ると効果的ではないか。

- ・西にある堤防の有効利用ができるとう良い。

この人にお話をうかがいました！

株式会社トヨタオートモールクリエイト
植村正俊さん

調査日：平成18年11月13日(月)
調査者：商業流通課 矢島、都市政策課 平野
岐阜振興局 永田